

# 教育の情報化で加速する評価 「これまで」と「これから」

これまで 2002年－2021年  
これから 2022年－2040年



2022年2月23日（水）

特定非営利活動法人 英語運用能力評価協会

事務局長 白戸治久

[shirato@english-assessment.org](mailto:shirato@english-assessment.org)

# テーマとキーワード

■ 教育の**情報化**（ICT、一人一台、テクノロジー、〇〇リテラシー）

■ 教育**評価**（**改革**）

（評価/テスト、入試、外国語・言語教育、コミュニケーション）

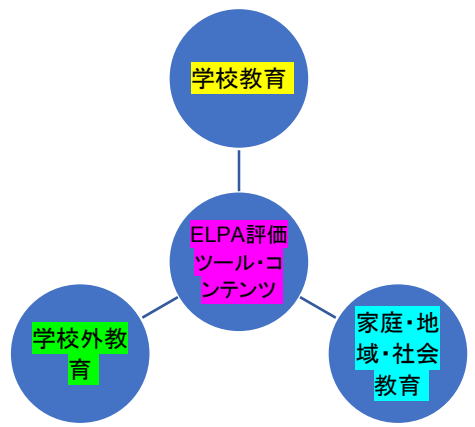
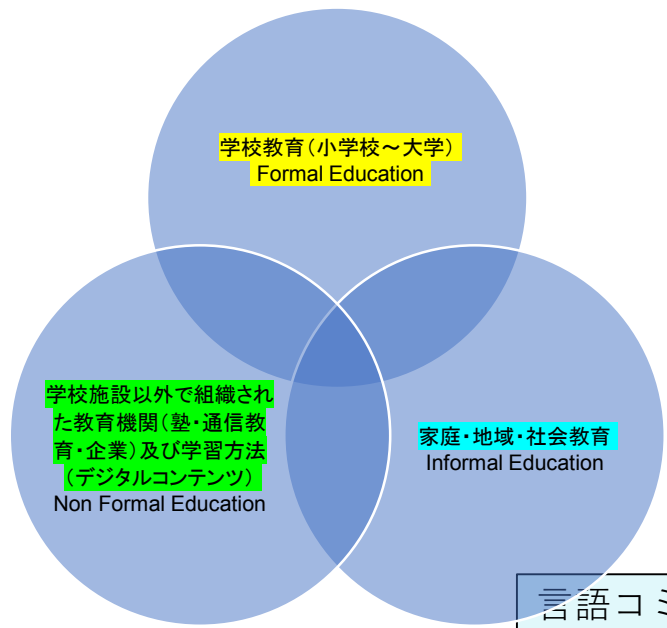
■ 学習・能力（アクティブ・ラーニング、非認知能力、個別最適化、  
コンピテンシー、イノベーション）

■ コンテンツ・ツール

（デジタルコンテンツ・テストアイテム・機械翻訳）

◆**特定非営利活動法人 英語運用能力評価協会**（NPO ELPA：エルパ）

# ELPAのミッションと担う役割 (これまでとこれから)



英語力の測定をするテスト開発  
マークシートによる一斉採点  
「ACE /BACE /英語プレイスメントテスト」

言語コミュニケーションを評価する採点ツールの開発  
CBTによる個別採点

AIを活用した自由記述、自由産出評価ツールの開発

目的に応じた言語コミュニケーション空間の提供

コミュニケーションが円滑になる社会の実現

2002年  
H14

2003年  
H15

15%

2008年  
H20

2015年  
H27

2019年  
H31/R1

20%

2022年  
R4

30%

2025年  
R7

40%

2030年  
R12

60%

2035年  
R17

80%

2040年  
R22

達成

ELPA設立

日本語の基礎力を調査するテスト開発「日本語能力基礎調査」

CBTによる英語力の測定テスト開発「英語オンラインプレイスメントテスト」ELCA

日本語の読解力を測定するテスト開発「日本語リーディングリテラシーテスト」

英語4技能をオンラインで測定するテスト開発  
「英語オンラインプレイスメントテストE-Vision」



# 2040年の社会のイメージ「人間性の再興・再考による柔軟な社会」

人間らしさを再考し、多様性を認め共生する社会

リアルとバーチャルの調和が進んだ柔軟な社会

無形／個人

有形／個人

無形／社会

有形／社会



人間機能の維持回復とデジタルアシスタントの融合による「個性」が拡張した社会

カスタマイズと全体最適化が共存し、自分らしく生き続けられる社会

# ELPAとは？

特定非営利活動法人 (NPO) 英語運用能力評価協会  
Association for English Language Proficiency Assessment

# 英語運用能力評価協会設立の目的

## •第3条（目的）

この法人は、児童、生徒、学生、教師、一般社会人  
に対して、英語運用能力の**評価**、英語教育・**学習の**  
**効果の測定と評価**、英語指導法・**評価法**の**研究開発**、  
**評価**と学習の指導者育成に関する事業を行い、わが  
国英語教育事業の健全な発展向上、外国語教育の普  
及および国際人の育成に寄与することを目的とする。

# 趣旨説明

## ELPAのミッション

- ELPA（英語運用能力評価協会）とは 英語運用能力評価協会（ELPA）は、「わが国の学校における英語教育の成果を客観的に調査・評価するテストを実施し、実践的で効率的な学習指導の提言を行う」ため、2003年4月15日に東京都知事の認証を得て設立された特定非営利活動法人（NPO）です。
- 言語能力における測定・評価の研究者、英語教育の研究者、教育現場の先生方および出版社、教育関連企業などが参加した協同作業により、第三者機関として英語教育における公正なテストと評価を提供し、日本の英語教育の現場に対して新しい指導法や学習方法の提言を行っていきます。
- 私たちが、現在行っている具体的な活動は、生徒・学生の英語運用能力を評価するテストを開発・実施し、評価結果とそれにもとづく分析結果を学校や自治体、先生、研究者にフィードバックすることであり、学校教育現場における日常的な学習指導の支援と、わが国の英語教育の健全な発展向上に寄与することを目的としています。



# ELPAの事業

- 英語運用能力評価テスト（ACEテスト、BACEテスト、JUMPテスト、大学プレイスメントテスト、新4技能テスト）の開発と実施・運営
- 日本の英語学習者に向けた新しい評価テストの開発
- 英語運用能力に関する調査・研究
- 英語教育に関する独自のデータをもとにした調査・研究・コンサルティング
- 実践的ですぐれた教材モデルを現場の教師や研究者、出版・教材会社などから広範囲に募り教材化し、共有・供給するシステムをつくる。


# テスト（英語・日本語）を 運営するところ

# 英語プレイスメントテスト

PBT／CBT：(600円～1200円) 同価格

<a href="#">英語プレイスメントテスト</a>	(大学入学時標準英語範囲   英検 3級～英検 2級   TOEIC 300点台～700点程度)
<a href="#">英語プレイスメントテストCore</a>	(大学入学時／基礎英語学習者全般   英検 4級～英検 準2級)
<a href="#">英語プレイスメントテストα</a>	(大学入学時標準英語範囲   英検 準1級   TOEIC ～800点程度)
<a href="#">英語プレイスメントテストAdvanced</a>	(大学入学時標準英語範囲   英検 準1級   TOEIC ～800点程度)
<a href="#">英語プレイスメントテストEX</a>	(高校既習事項から実践英語範囲まで   英検 3級～英検 2級   TOEIC 300点台～700点程度)

P0506A



**英語プレイスメント・テストα**

**Part1**  
Listening

**Part2**  
Vocabulary and Grammar

**Part3**  
Reading

**重要**

- ・このテストは、パート1「リスニング・テスト」、パート2「語い・文法テスト」、パート3「リーディング・テスト」の、3つのパートで構成されています。
- ・解答はすべて、マークシートの番号をぬりつぶすことによっておこないます。
- ・試験中に問題冊子にメモを書き込んでもかまいません。

⊗ 指示があるまで冊子を開いてはいけません。

© 英語運用能力評価協会 - 1 -

英語プレイスメントテストα  
(PBT／CBT)  
大学入学時標準英語範囲の中  
でもリスニングは1回放送となり  
ハイレベルな受験者に適したク  
ラス分けに対応  
試験時間70分、問題数98問、リ  
スニング1回放送  
英検 3級～準1級、TOEIC 450～  
800点程度レベル

# コンピューターを利用したELPAのテストシステム Computer Based Testing (CBT)

「CBT (ELCA)」はコンピューターを利用して実施していただくテストです。大学入学時のクラス分けテスト（プレイスメントテスト）や定期テスト、検定・資格試験前の実力把握などにご利用いただけます。



# ELCAの画面

## Listening

例題問題

※ブラウザの戻るボタンは、使用しないでください。

ELPA 英語運用能力評価協会

テスト1 ログアウト

例題問題

Part 1 Listening : Section 1 ※問題選択 Question.1 / 全 3 問

1 このセクションでは、英語の質問と3つのイラストが示されています。英文を聞き、質問の答えとしてもっとも適切なものを①～③のイラストから選びなさい。なお、英文は1回だけ放送されます。

What are they doing ?



①    
②    
③

再生中 8 秒 / 47 秒

<< 戻る 保存して次へ >>

## Reading

例題問題

※ブラウザの戻るボタンは、使用しないでください。

ELPA 英語運用能力評価協会

テスト1 ログアウト

例題問題

Part 3 Reading ※問題選択 Question.1 / 全 1 問

1 このパートでは、それぞれの英文の後に、質問が1題から3題あります。英文をよく読み、質問の答えとしてもっとも適切なものを、それぞれ①～④からひとつ選びなさい。

Where will Kate go ?

To David,  
I'm going to the park with Linda tomorrow.  
Do you want to come with us ?  
Kate

①  Linda.   
②  The park.   
③  Tomorrow.   
④  David.

解答へ >>

# 「日本語能力基礎調査」

- 2008年から実施 価格：440円、572円（読解付）
- 小中高既習～社会人レベルの日本語運用能力調査。生徒・学生に必要な国語力をはかり、社会人としての基礎をつくります。日本語能力基礎調査は、NPO法人 英語運用能力評価協会が開発した日本語能力調査ツール。
- 日々の学生生活に欠かせない日本語の知識と運用力に関するデータを提供いたします。教育効果を高めるプレイスメント調査として、また、学生の日本語に対する意識を高める手段として利用出来る。

# 日本語能力基礎調査

100問

指示があるまで冊子を開かず、下の注意事項をよく読んでください。

## 注意事項

1. 問題冊子は16ページです。ページの脱落や、印刷が不明な箇所があれば試験監督者に申し出てください。
2. テストの開始前に、解答用紙（マークシート）に受験番号、校名、氏名などの必要事項をマークしてください。
3. 設問は①～⑩に分かれています。
4. 解答はすべて、マークシートの番号をぬりつぶす方法で行います。
5. 試験中、この問題冊子にメモを書き込んでもかまいません。

実施・運営：NPO法人  
英語運用能力評価協会（ELPA）

J119

## 日本語能力基礎調査 (PBT / CBT)

小・中・高等学校で学んできた国語学習が日本語運用能力としてどれくらい定着しているかを確認するための調査で、大学生・社会人として必要な国語力をチェックします。



# 日本語リーディングテラシーテスト

- 2020年3月 日本語リーディングリテラシーテスト

「従来型の読解力」とどまらず、「新・読解力」を測定評価するテスト。

●従来型読解力：文学的文章や説明的文章などの連続型テキストを読み、その内容＝情報を取り出す力

●新・読解力：PISA型読解力、具体的には上記連続型テキストだけでなく「図・グラフ・表などの非連続型テキスト」を含む資料の

- ①「テキストに書かれた情報を取り出せる」だけでなく、
- ②「理解・評価（解釈・熟考）ができる」
- ③「テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりするなどの活用ができる」能力

日本語リーディングリテラシーテスト



## 日本語リーディングリテラシーテスト (PBT／CBT)

「従来の読解力」にとどまらず、  
「新・読解力」を測定評価するテスト  
試験時間**50分**＋アンケート**10分**、問題  
数**100問**、**100点満点**のスコア制

<https://elpa.or.jp/jrlt/>

日本語リーディングリテラシー研究会  
特定非営利活動法人 英語運用能力評価協会

R1131

# < NPOとしての社会還元 >

## ◆実施人数が一定数達したテストの価格引き下げ

- 英語運用能力テストACE 1,350円→**1,200円**
- 英語運用能力基礎テストBACE 800円→**450円**
- 中学校英語力測定テストJUMP 400円→**300円**
- 英語プレイスメントテスト 900円→**800円**
- 英語プレイスメントテストCore 700円→**600円**

# テキストや教材を販売する ところ

## 英語の語順トレーニング

### 聞く・話す・書く 英語の語順トレーニング

「書く」の繰り返しで定着させる、4技能型対応の新しい英語教材システムです。

#### ■監修

法政大学教授 飯野厚

#### ■学習レベル

Level 1 中学校・高等学校1年

Level 2 高等学校1年・高等学校2年

#### ■構成

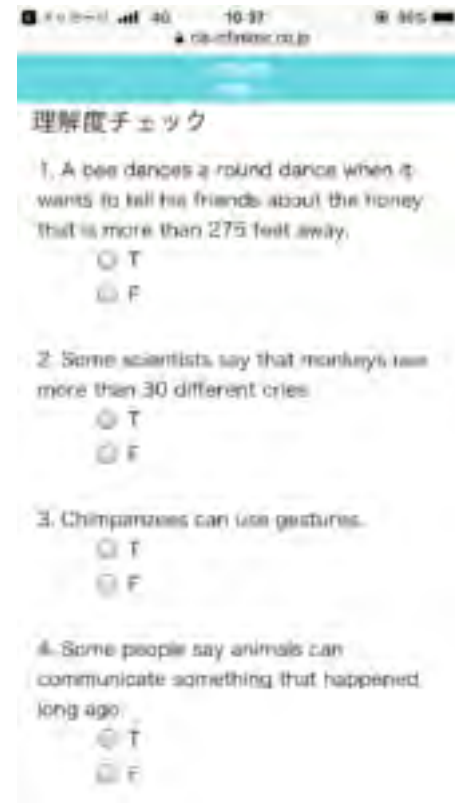
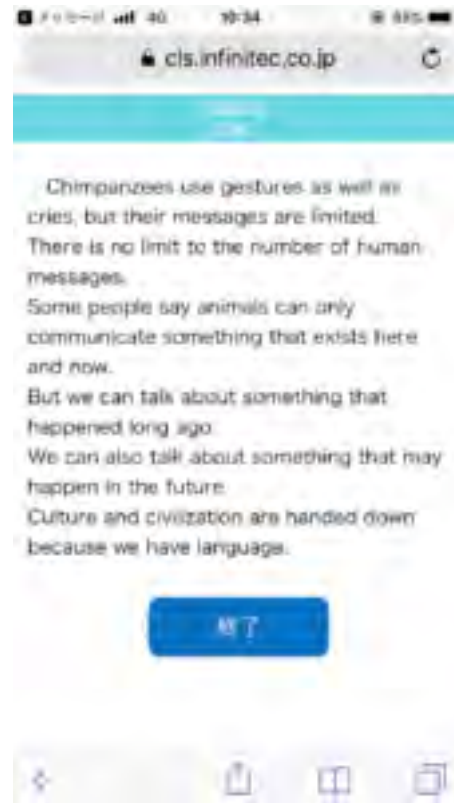
本冊

B5版 56ページ

Lesson 20回 + Mix Training 5回



# 速読アプリ



セミナーやイベントを開催  
するところ

## ELPAのセミナー紹介

- ELPA教育シンポジウム2022 教育の情報化で加速される「評価」 これまでとこれから (2022年2月23日 | オンライン)
- GIGA スクール、次のステップへ (2021年11月21日 | オンライン)
- みんなで考える！ AIツールを使った教育サービス (2021年10月30日 | オンライン)
- 社会・企業で求められる英語力について「学ぶ英語から使える英語へ」 (2021年10月2日 | オンライン)
- これからの英語教育<初等教育と中等教育の橋渡し> (2021年9月25日 | オンライン)
- 社会に生きる 日本語・国語能力の育成 (2021年9月11日 | オンライン)
- 英語4技能Onlineプレイスメントテスト、ただ今開発中！ (2021年8月22日 | オンライン)
- XR技術は教育現場をどのように変革するのか？～言語教育にも使えるカンタンVR教材制作～ (2021年7月17日 | オンライン)
- 英語教育は「道具としてのAI」をうまく活用できるのか？ (2021年6月19日 | オンライン)
- 言語テスト：目標の到達と未到達－大友賢二先生追悼－ (2021年5月15日 | オンライン)
- 大学入学共通テストとリーディングリテラシー (2021年4月24日 | オンライン)
- 英語プレイスメントテスト再考～今、その意義を問う (2020年12月19日 | オンライン)
- オンライン教育時代の英語能力別授業とその評価 (2020年11月28日 | オンライン)
- 新学習指導要領と大学入試をつなぐ測定と評価の在り方 (2020年10月31日 | オンライン)
- いま、なぜAI時代の教育が掲げられるのか？～教育用AIサービス設計者による入門講座～ (2020年10月10日 | オンライン)
- 今求められる日本語リーディングリテラシー2020 第2回 (2020年9月27日 | オンライン)
- 「オンライン授業」における日本の英語教育の現状と課題、今後の評価・テストへの提言 (2020年9月6日 | オンライン)
- 今求められる日本語リーディングリテラシー2020 第1回 (2020年8月16日 | オンライン)
- これからのテストを考える～新共通テスト、推薦入試への対応～ (2019年12月22日 | 東京)
- AI世代に必要なアクティブ・ラーニングと評価 (2019年10月14日 | 東京)
- 中高ギャップを埋める (2019年8月21日 | 東京)
- ELPAの教育改革提言！～大学入試制度改革、新学習指導要領への処方箋～ (2019年6月29日 | 東京)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2018年12月23日 | 東京)
- 大学入試改革をどう受け止める～公立・私立進学校の立場から～ (2018年12月16日 | 東京)
- 「英語テスト」どうする？どうなる？～入試・4技能（パフォーマンス評価）・授業－指導と評価を考える～ (2018年11月17日 | 東京)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2018年10月20日 | 北海道)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2018年9月30日 | 北海道)
- 「文法」を「教える」？～英語授業での「文法」の扱い方を考える (2018年8月10日 | 東京)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2018年2月17日 | 群馬)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2018年2月3日 | 福岡)
- 基礎英語力定着を目指して～授業改善の取り組み～ (2018年1月21日 | 東京)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2017年12月23日 | 愛知)
- 基礎英語力定着を目指して～授業改善の取り組み～ (2017年12月16日 | 兵庫)
- 基礎英語力定着を目指して～授業改善の取り組み～ (2017年11月12日 | 石川)
- 英語の語順トレーニングと音声教育～4技能の向上を見据えて～ (2017年10月21日 | 埼玉)

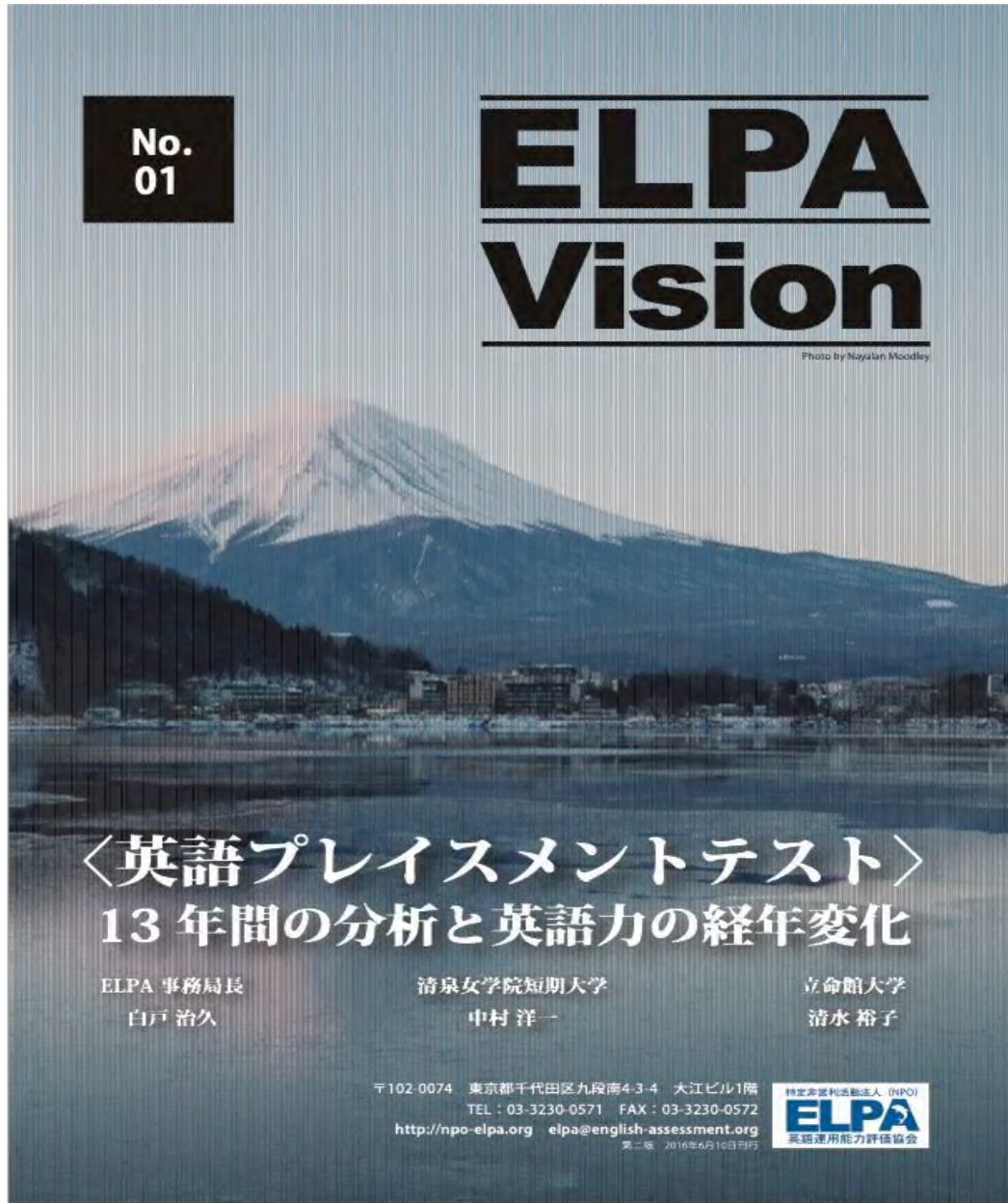


# NPOって何？ 会社・企業とどう違うの

「**NPO**」とは「Non-Profit Organization」  
又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、  
様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、  
収益を分配**する**ことを目的としない団体の  
総称です。

# < NPO ELPAの社会貢献 >

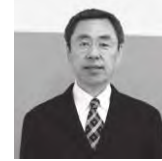
- テストデータを公表し、言語（英語）教育の発展に寄与する
- テスト実施費用を抑え、多くの指導者、研究者、学習者に利用していただき、授業や講義で活用できる教育データを提供する
- まとまったデータを報告書にまとめ、指導、学習方法、シラバス、研究に役立ててもらおう
- 言語（英語）教育に対して指導法、学習法の提言を行う



## ＜英語プレースメントテスト＞ 13年間の分析と英語力の経年変化



ELPA 事務局長  
白戸 治久



清泉女学院短期大学  
中村 洋一



立命館大学  
清水 裕子

### はじめに

特定非営利活動法人英語運用能力評価協会（Association for English Language Proficiency Assessment：ELPA）では、協会の活動のひとつとして英語運用能力評価テストの開発と実践・運営を行っており、現在までに、中学生向けに「JUMP」、高校生向けに「ACE」・「BACE」、大学生向けに「英語プレースメントテスト」を開発し、実用に供してきている。また、毎年問題の検証を行いながら、良質な問題で構成されたテストパッケージについては、テストの再利用を数年ごとに行っている。本稿では、その中の大学1年生の入学時に実施された「英語プレースメントテスト」を取り上げ、2008年と2015年に使用された同一のテストによる結果を比較しながら、項目分析や経年変化を分析し、考察する。

## 1 「英語プレースメントテスト」について

「英語プレースメントテスト」はELPAが開発した大学向けクラス分けテストで、主に4月に実施されている。2003年4月のELPA設立以来、100を超える大学・短大・専門学校で活用されており、受験者累計は50万人を超える。本テストは事前に数万人規模で実施されたパイロットテストの結果を項目応答理論（item response theory：IRT）により検証し、さらに大学入学時のレベル分けテストとして機能させるために、正確で適切な順序となるように項目の並び替えを行い、どのレベルの受験者についても信頼できるスコアを提供することを目的として作成されている。また、大学入学時の学生を対象とするため、言語材料は中学・高校での既習事項範囲で設計されており、難易度もおおよそ実用英語技能検定（英検）2級レベルとなっている。

### 1.1 テストの概要

前述の通り、「英語プレースメントテスト」は大学入学時のレベル分けを主たる目的として開発されたテストで、項目数60、実施時間60分、得点の範囲は0点～300点となっている。標準的な測定レベルは英検3級～2級、TOEIC® 300点台～700点程度である。なお、受験者の各項目への応答に項目応答理論を適用し、各パート毎にラッシュモデルにより受験者能力を推定し、それをもとに尺度化した数値を「得点」としている。

本テストはリスニング、語彙、文法、リーディングの4種の下位テストから構成されるが、語彙および文法はひとつのパートとして出題されている。パート毎の項目数と時間配分は表1の通りである。

〈表1〉「英語プレイズメントテスト」の構成

パート	項目数	時間配分	得点
1 リスニング	14	20分	100点
2 語彙・文法	30	15分	50点×2=100点
3 リーディング	16	25分	100点
合計	60	60分	300点

〈表2〉英語プレイズメントテストの実施実績（4月実施分の受験者数と平均点）

年	受験者数	平均	リスニング	語彙	文法	リーディング
2003	4,443	160	51	28	28	53
2004	8,058	161	58	26	24	53
2005	9,397	161	53	29	27	52
2006	13,254	150	51	28	26	45
2007	16,254	151	55	24	24	48
2008	16,521	160	55	27	25	53
2009	23,963	174	60	31	27	56
2010	18,085	167	53	29	29	56
2011	14,598	147	50	26	25	46
2012	17,833	159	53	28	27	51
2013	15,133	160	49	29	31	51
2014	19,871	164	58	28	26	52
2015	11,448	171	57	30	27	57

## 1.2 実施実績

「英語プレイズメントテスト」の2003年以降の実績は表2に示す通りである。また、各年の合計と下位テスト毎の平均点を示しておく。

## 2

## 分析

〈図1〉2008年・2015年4月実施得点分布表

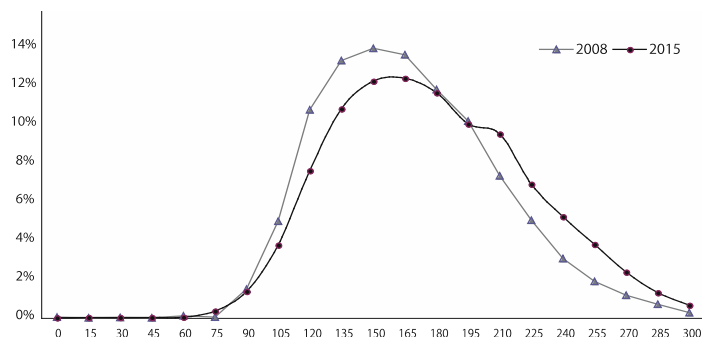


表9は、2008年と2015年の同一項目の正答率とその差を示したものである。最初の2項目は、広告とメッセージ文で、文字情報が少ないこともあり、正答率はどちらの年でも80%を超えていた。項目4以降は、1つの英文に対して質問が2つあり、最後の英文のみ質問が3つある。2008年と2015年の差が特に高かったのは項目8・9および項目10・11で、両者に共通するのは、解答の際に、異なる2つの情報源を読み比べながら必要な情報を収集しなければならないということであった。

〈表9〉リーディング・テストの正答率（%）

年	1	2	3	4	5	6	7	8
08	84.9	82.2	52.5	67.4	74.5	56.2	46.0	36.5
15	89.1	85.6	56.4	73.8	80.0	63.0	52.6	44.0
差	4.2	3.4	3.9	6.4	5.5	6.8	6.6	7.5

〈表10〉英語教育の動向と平均点の単純比較

年	平均	リスニング	語彙	文法	リーディング	高校英語教育の動向
2003	160	51	28	28	53	ゆとり教育開始
2004	161	58	26	24	53	
2005	161	53	29	27	52	
2006	150	51	28	26	45	センター試験リスニング実施 ゆとり教育開始後初の卒業生
2007	151	55	24	24	48	
2008	160	55	27	25	53	
2009	174	60	31	27	56	
2010	167	53	29	29	56	
2011	147	50	26	25	46	
2012	159	53	28	27	51	
2013	160	49	29	31	51	
2014	164	58	28	26	52	新教育課程施行開始
2015	171	57	30	27	57	
2016	-	-	--	-	-	新教育課程を経た卒業生

最後の英文は科学的な内容で、特に項目14では正答率が両年共に20%を切っていた。また項目12以降、わずかではあるが無解答が増えており、時間配分の手配を得ない者や、備えている読解力に比して、処理すべき英文の量が多い学習者が存在するといえよう。

## 2.4 英語教育の動向と平均点の単純比較

表10は、表2の実績のデータに英語教育の動向を加えたものである。本稿の関心事である、同一問題で実施した2008年と2015年の平均点を単純比較すれば、若干ではあるが、すべてのパートで2ポイント程度、2015年の方が高くなっている。

2003年からの平均点を単純比較して言えば、大きな変化は認められないと言えよう。ただし、旧教育課程のもとで学んだ最後の卒業生である2015年受験者の数値が、その前年（2014年）の受験者と比べて7ポイント高くなっており、この変化を始まりとして、新教育課程による英語教育の成果がどのような数値となっていくのか、経年比較を続けて検証していくことが必要であろう。



VOL101 ELPAメールマガジン (2022.1.5) 毎週水曜発行  
特定非営利活動法人 (NPO) 英語運用能力評価協会<http://elpa.or.jp/>  
〒162-0806 東京都新宿区榎町39-3 神楽坂法曹ビル501



◆教育の国際デーをご存知でしょうか。

国際連合（以下：国連）が制定する「教育の国際デー」は2018年に採決された新しい記念日です。

英語表記は「International Day of Education」。日本語では「国際教育デー」と表記されることもあります。

教育の重要性を国際社会に訴える「教育の国際デー」は、国連が掲げている「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」、いわゆるSDGsとの関りも深いようです。

まだ、なじみの浅い制定されたばかりの教育の国際デーですが、2022年の「教育の国際デー」は1月24日月曜日、教育の国際デーは毎年「1月24日」に定められています。



目次



【1】ELPA Pick Up最新教育情報

☆今週の注目情報 ◆こども政策の新たな推進体制に関する基本方針について（令和3年12月21日閣議決定）  
他15本の教育情報をお届けします。

【2】ELPAからのお知らせ <オンラインセミナー>

【3】ELPA英語教育チャンネル（セミナー紹介動画・教材コンテンツ）

【4】事務局からのお知らせ<ELPA会員について>▼2022年度会員募集

【5】教育情報 <教育関係セミナー・フォーラム情報・教育コンテンツ・教育サービス>

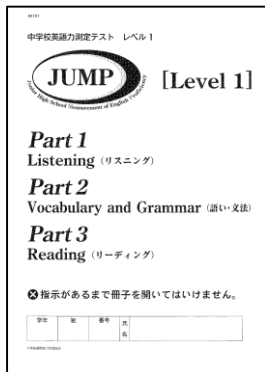
国や自治体とのコラボレーション  
企業や団体とのコラボレーション

# <NPOとして これまでの取り組み>

- テスト・コンテンツ開発（大学、企業、教育機関）
- 研究開発（大学、企業）
- データ研究（大学・研究者）
- 実証研究（文科省、総務省、教育委員会）
- 講演・研修（小学校～大学、教育委員会）



# ○ 寝屋川市「英語特区における小学校英語活動の長期的効果の研究」における英語力指標テスト「JACE」提供



## [JUMP]中学校英語力測定テスト

### JUMP (Junior High School Measurement of English Proficiency)

中学2年生以上を対象とした、中学英語の運用能力を測るテストで受験する学年によって、3種類のレベルを用意

# 言語教育における 教育評価とテクノロジー

- 教育評価とテクノロジーに関する調査・研究
- 教育ICT、教育データを元にしたツールの開発
- 大学、教育委員会、文部科学省、総務省との連携したプログラム提供

## ◆アドバイザー・自治体・企業との連携 ※敬称略

- 英語運用能力テスト開発：大友賢二 他30名以上の協力
- 英語診断テストプロジェクト：金谷憲・酒井英樹 他15名の協力
- CBT（コンピュータベース型テスト）実証研究：中村洋一、教育企業
- 一人一台端末実証研究（個別診断テスト）：竹内理、和歌山市、富士通
- ICT化教室での実証研究（国語教科書）：群馬大学、東芝他複数企業
- 日本語能力基礎調査開発：吉田和夫、一般社団法人言語教育研究所
- 英語4技能コンテンツ開発：飯野厚、音声認識テクノロジー企業
- 速読アプリ開発：金谷憲、開隆堂・三省堂・東京書籍
- チャンクアプリ開発：神白哲史・臼倉里美・日臺滋之・東京学芸大学
- 英語4技能オンラインテスト開発：根岸雅史 他複数関係者

# 「評価」

- 定期（実力）テストはしなければならない？
- 評価はテストで測らなければならない？
- 教科書で教えた事をテストしなければならない？
- 採点しやすいテストとは？
- 採点しにくいテストとは？
- 知識を問わないテストとは？

# 「情報化」

- 一人一台の端末？
- デジタルの方が教育に適している？
- 日本の情報化は遅れている？
- オンラインより対面の方がよい？
- 評価（テスト結果）とデジタルの相性とは？
- （試験・テスト会場に）情報端末を持ち込んで評価をする

# 評価・テスト・情報化

- どのように評価しますか
- テストは必要ですか
- 情報化をする理由
- 個別最適な学びとその評価



# 1.1. デジタル社会を見据えた教育（基本的な考え方）

## 教育の目指すべき姿

### ◎ 人格の完成

◎ 平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成



## 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿（R3.1中央教育審議会答申）

◎ 全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

◎ 必要な改革を躊躇なく進めることで、従来の日本型学校教育を発展させ、「令和の日本型学校教育」を実現

2017年指導要領改訂：  
「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」  
2018年Society5.0人材育成懇談会：  
「Society5.0に向けた学校ver3.0」



## 子供達を取り巻く状況



- 1クラスの中に、不登校、特別支援、日本語指導、貧困、特定分野に特異な才能のある子供など多様な背景や認知特性等を有する子供達が存在。
- 子供達の理数の学力は世界トップレベル。他方、学習意欲や学校生活の満足度、自己効力感等の観点から課題。
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止策と学校教育活動の両立を図る必要。



## 教育のデジタル化のミッション・ビジョン

<ミッション> 誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会

<ビジョン> データの①スコープ（範囲）、②品質、③組み合わせ、の拡大・充実により、教育の質を向上させる



誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化



## デジタル社会のビジョン

教育DX  
で実現

個別最適な学びと協働的な学びを真に実現するために、上記のミッション・ビジョンも踏まえ、制度面等で改善すべき点がないか、関係省庁が「ワンチーム」となって検討。その際、例えば約5年後などに見込まれる次期学習指導要領の改訂など今後の大きな教育改革の流れを見据えるとともに、教育の機会均等と水準の維持向上という教育制度の根幹的な役割が社会的構造的变化の中で益々確固たるものとなるよう、現場の声も聴きながら検討を進める。

デジタル社会推進会議（R3.9.6）総理指示  
第2に、暮らしのデジタル化です。（中略）教育（中略）などのデジタル化と制度の見直しを進めます。

## 学校を取り巻く状況



- 子供達の知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」は諸外国から高い評価。他方、社会の変化とともに学校の役割は肥大化。
- 少子化が進む中で、適正規模の学校を維持することが地域によっては困難に。
- 教員の勤務時間はOECDの中で最長。うち、課外活動や事務作業の負担が比較して大きい。
- 左記の多様な子供達の実態とともに、離島やへき地等の過小規模校など様々な実態の学校が存在する中で、学習指導の基本的な枠組み（「学校で」「教員が」「同時に」「同一学年の児童生徒に」「同じ速度で」「同じ内容を」教える）では十分に対応できない可能性。
- GIGAスクール構想を含め、「令和の日本型学校教育」活動を長期的に持続可能とするための、リソースの再配分が必要。
- GIGAスクール構想の背景となった地域間での教育環境の格差や教育データの標準化の方向性も踏まえ、教育のデジタル化の推進に当たっての国と地方との関係等についても検討が必要。

# 1 1. デジタル社会を見据えた教育（教育DXの目指す姿）

- 教育DXの目指す姿は、学習にまつわる様々な場・人・モノの「組み合わせ」が広がり、学習者主体の教育が実現されること。  
（「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」）

※下記にかかわらず、ICTも活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実践する先進的な取組を行う学校も存在。

## 「学校で」教える

- ✓ 教育は、基本的に学校という「場」で行われる必要がある。
- ✓ 児童生徒同士や教師と児童生徒の関わり合いが重要であり、児童生徒は、学校に通う必要がある。



## 「教員が」教える

- ✓ 授業は、免許を有する教員による指導が中心となって行われている。



## 「同時に」教える

- ✓ 児童生徒は、集団で同時に同内容を教わる。



## 「同一学年の児童生徒に」 「同じ速度で」「同じ内容を」教える

- ✓ 各学年において教えるべき内容が、学習指導要領に規定されている。
- ✓ 学習進度が早い児童生徒も遅い児童生徒も、一斉授業により、同じ速度で同じ内容の授業を受ける。



## 教育DX後の世界（目指す姿）

### 「どこからでも」学べる

- ✓ 学校は、児童生徒同士や教師と児童生徒の関わり合いの重要性を踏まえつつ、児童生徒が学校で集うことでしかできない学びを行う。
- ✓ それ以外の学びは、学校でもそれ以外の場所でも、本人に最適な場所で学ぶ。



### 「誰とでも」学べる

- ✓ 各知識・技能を教員が教えるだけでなく、各児童生徒の学びがより進むように、その学びをデザインし、支えるのが教員の役割となる。
- ✓ 児童生徒が集うことでないといけない学びを、様々な人材などのリソースを取り入れてコーディネートする役割も求められる。



### 「いつでも」学べる

- ✓ 同時に集団でしか学べないことを、協働的な学びで学ぶ。
- ✓ 入口のみの質管理から、出口とのハイブリッドによる質管理へ。



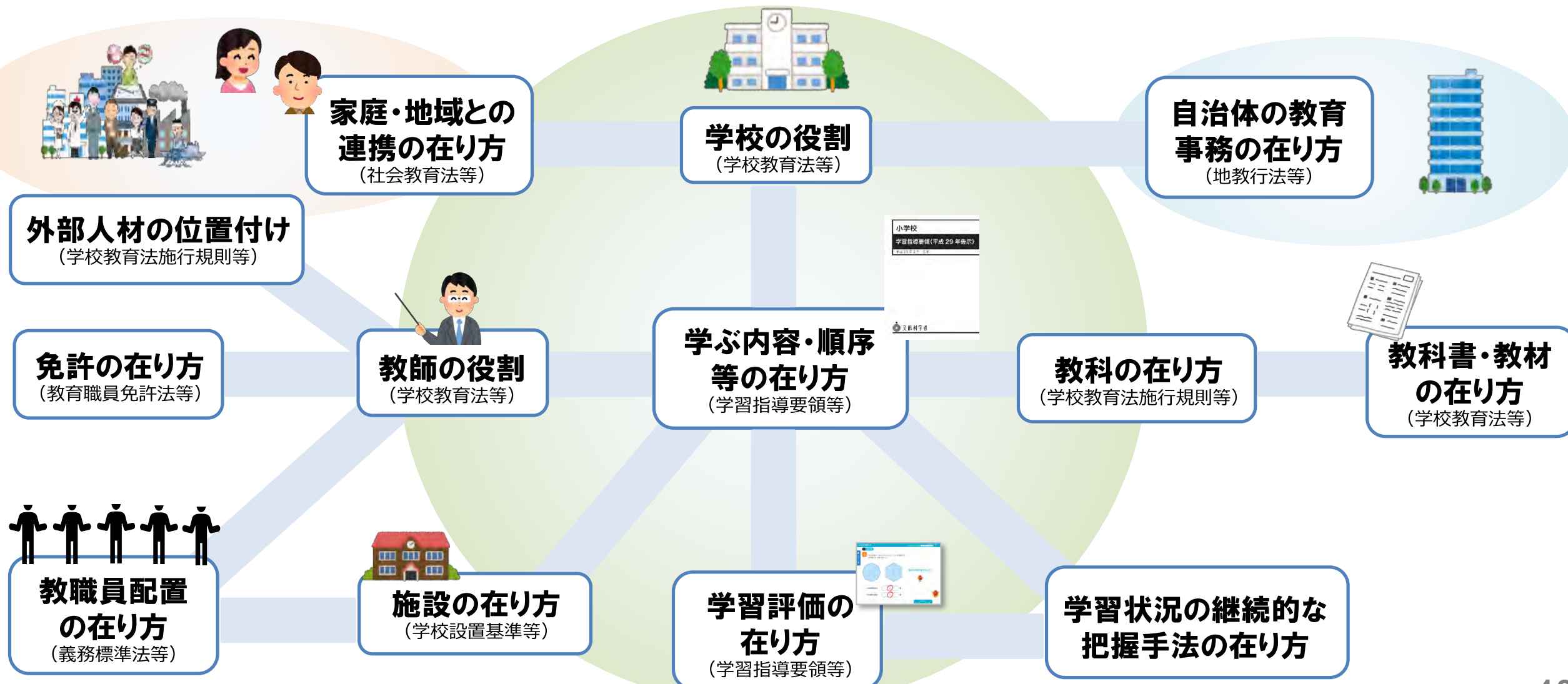
### 「自分らしく」学べる

- ✓ ビッグデータの解析に基づき、本人の特性や理解度に応じて、同じ年齢においても、児童生徒ごとに学ぶ内容・学ぶ順序は異なる。
- ✓ どの学年でどの内容をどの順番で学ぶことが妥当かは標準的な姿にすぎなくなる。



# 1 1. デジタル社会を見据えた教育（学校を取り巻く状況についての論点）

- 学校の役割、教員の役割、学習指導の在り方などは、**各種制度が相互に関連し合って形成**されているもの（下記参照）。
- これらについては、**制度面・運用面で改善が必要なものがないか、関係省庁において今後検討**を行う。



## — 13. 今後の進め方

- 本ロードマップは、今後の教育データの利活用に向けた施策の全体像と、その青写真を関係省庁で描いたもの。
- デジタルやデータはあくまでも手段であり、目的はミッションに掲げた「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現である。

こうした社会において、次代を切り拓く子供達に求められる資質・能力としては、正解のない課題に対し、当事者意識を持ち、他者と協働しながら新たな価値創造を生み出す力、具体的には、

  - ・文章の意味を正確に理解する読解力、教科等固有の見方・考え方を働かせて自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力
  - ・豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成、各教育段階に応じた体力の向上、健康の確保

等が挙げられ、GIGAスクール構想の実現を踏まえた資質・能力の育成に向けた評価の手法についても、検討を深める必要がある。
- また、社会との接続に目を向ければ、誰もが生涯にわたって学び続け学び直しができるよう、大学の経営改革や教育内容・方法の転換、産業界との連携の更なる推進を含め、教育と社会との接続の多様化・柔軟化を推進する必要がある。
- こうした、デジタル社会を見据えた教育については、中央教育審議会はもちろんのこと、デジタル臨時行政調査会、教育未来創造会議、内閣府総合科学技術・イノベーション会議 教育・人材育成ワーキング・グループといった省庁横断的な場においても検討を深めていくこととする。
- 本ロードマップは、「決定して終わり」というものではなく、今後、本ロードマップに基づき具体的な施策を関係省庁において実行していく中で、学校現場の教職員、保護者、教育委員会を含む地方公共団体、教育研究機関、民間事業者、そして何よりも、教育の一番の当事者である子供達の意見も聴きながら、施策を推進していくこととする。

また、こうした多様な関係者が目的を明確化・共有し、各関係者もその目的に沿ってそれぞれの活動を改善していくよう、EBPM (Evidence-Based Policy Making) を徹底していくことが肝要である。

2022年 英語4技能をオンラインで測定するテスト

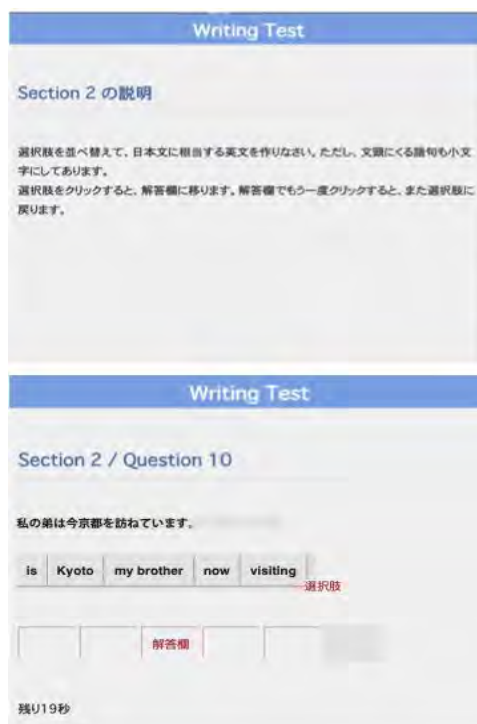
「英語オンラインプレイスメントテスト」

**E-Vision**

# 4 技能アイテム



英文、質問および選択肢が音声で聞こえますので、ラジオボタンを押して解答を選択します。  
Section 1 では各英文（一回読み上げ）に 1 問、Section 2 では各英文（一回読み上げ）に 2 問ずつ出題されます。  
メモを取ってもかまいません。



2002年11月出版（桐原書店）



## テストで言語能力は測れるか ～言語テストデータ分析入門～

「相対評価」から「絶対評価」への教育評価の今日の変動に適切に対処するため、関係者がまず持っていない評価についての「基盤」を築く書。